



江南の子

令和4年度
第6号

子どもが授業で笑うとき…

校長 藤井 正人

「授業中、子どもが笑う場面を少なくとも1回はつくりなさい…」今から三十数年前、新採用研修会での講師のこの一言が、私の心に深く刻まれました。

「授業中、子どもが笑う？」…当初、真面目に真剣に学習に取り組む姿を目指していた私には、「授業中に笑う」という状況やそのことの価値がピンときませんでした。ただ、当時授業スキルが未熟だった私の授業は、真面目・真剣というより重苦しい・退屈という形容の方が似つかわしかったのです。そのような状況を変えたいという一心で「子どもが笑う」場面をつくろうと努めました。ダジャレやギャグという極めて低級な方法で。

「平行四辺形の面積を求めるときに、底辺の位置を間違えると“てーへん”（大変）だぞ。」

時は流れて令和4年9月某日の4年生社会科授業。「水害に備えるまちづくり」という学習で、授業の冒頭で教師が「新潟県のどこの市町村でしょうか？」と問い掛けて、数枚の写真を提示しました。子どもたちは大型テレビに映し出される写真に興味津々、表情は笑っています（マスクをしていても分かります）。最後に、竹とわらで作った大蛇の写真が出たときには、多くの子どもが「見たことある！」と満面の笑みを浮かべました。江南の子どもたちの、このようなときの反応や応答は本当に豊かで活発です。

子どもが授業で笑うとき…興味や関心を引く教材・学習材に出会い、かかわるとき。

同じく9月某日の5年生音楽科授業。ショスタコーヴィチの代表曲『祝典序曲』を鑑賞する学習です。楽曲を6つの場面に分けて、その中から自分のお気に入りの場面を選び、その理由をグループの友達に紹介するという活動が行われていました。「2番目の場面は、弦楽器と木管楽器の音色が重なり、とてもテンポがいいよね。」「確かにそうだね。私は、低音が響く、優しい旋律の3場面が好きだなあ。」…まるで音楽サロンにいるかのように、和やかで楽しそうな表情で語り合っていました。江南の子どもたちは、太陽の呼吸伍の型「イキイキ話し合い」の使い手として、話し合いのスキルもマインドも高まっています。

子どもが授業で笑うとき…自分の思いや考えをもって友達と話し合い、交流するとき。

冒頭の新採用研修会の講師に「子どもが笑うというのは、例えば上の2つのような場面のことですか」と尋ねたら、きっと「そうです」と答えるでしょう。これからも私達は、真剣に学習に取り組む中で、時には笑いが起こる、そんな授業づくりに努めてまいります。

ところで、新採用時代に「なんとしてでも子どもを笑わせたい」という、藁をもつかむ思いで連発していたダジャレとギャグ。その甲斐もあってスキルが多少身に付き、その後さらに“おやし脳”が加わり、今も思いつくまま子どもに言い散らかしています。

そんな私に向けて「校長先生、今日も絶好調！」と最高のシャレを返してくれる1年生の、なんと愛おしいことよ。